

平成15年度大台ヶ原自然再生検討会第1回森林生態系部会

委員指摘事項と対応

項目	委員指摘事項の概要	事務局の対応
防鹿柵	・なぜステンレス製の柵設置が進められるのか	●これまでの柵の設置における不備（網が破られる、網をくぐられる、雪により破損するなど）をその都度改良してきた結果、現在の柵に至っている。今後も改良は継続。間伐材利用の試験柵も来年度以降の設置を検討。
再生ポテンシャル調査	・対照区の調査方法について改善が必要	●植生調査に詳しい委員によるワーキンググループを開催し、対応。内容は資料2において説明。
ラス巻き木調査	・抽出作業でよいのでは	●ラス巻きエリアや年代はわかっているが、剥皮の程度により巻く、特定の樹種に巻くなど、実施年により対応が異なり、サンプリングの客観性の確保が難しいほか、コスト的にも極端な違いはないため、全数調査とする。
モニタリング調査	・モニタリング調査の頻度は	●今回は現況調査として実施。今後の再生事業の展開に伴うモニタリング調査の項目、頻度は以後の会合（あるいはワーキンググループ）で検討する。
両生類・爬虫類調査	・繁殖期、非繁殖期では状況が異なる	●委員と協議の上、翌年の繁殖期（3月以降）に水系ごとに調査を実施する。
希少種	・調査が必要	●生息・生育の可能性のある希少種や絶滅危惧種についてリストをとりまとめている。ただし非公開。
酸性雨（大気汚染）	・調査が必要	●地球環境局による全国的な酸性雨長期モニタリングの一環としての調査対象地のひとつに大台ヶ原のブナ林が選定され、今年9月より調査開始。大台ヶ原自然再生の一環としての調査については、今後専門家にヒアリングし、調査手法を検討する。

ワーキンググループ会合

●森林再生ポテンシャルの調査内容検討WG（9月12日：京都 参考資料1 p.1-2 参照）

議題・6タイプにわたって実施する再生ポテンシャルの調査内容について

（調査方法の確認、追加的調査の有無及び実施）

- ・ミヤコザサ草原（タイプI）における調査区の設定方法について
- ・ラス巻きつけ木の全数調査について
- ・利用による植生、動物への影響調査について

●森林再生手法検討WG（第1回）（10月22日：京都 同 p.3-4 参照）

議題・6タイプごとの再生手法の検討について

●森林再生手法検討WG（第2回）（11月23日、24日：大台ヶ原 同 p.5-6 参照）

現地検討：再生手法実証実験予定地、内容の検討